

学長定例記者会見要項

日 時： 2019年2月7日（木） 11：00～11：45

場 所： 法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

発表事項

1. 蔵王（山形）の樹氷はどのように全国に広まったか
～大正10年代から昭和10年代における文献・鳥瞰図・絵葉書等の資料から～
2. 企業の知財価値を見出し活かせるバンカー24名を新規認定
～「産学金連携コーディネーター」認定証授与式・記念講演を2/12開催～
3. 山形大学の研究紹介：寺院調査はおもしろい、日常生活史と史料の対話
～癌から新撰組まで～
4. 純米大吟醸「山形大学燦樹（きらめき）2019」完成
～山形大学オリジナル純米大吟醸酒、2/1より販売開始～

お知らせ

1. 「山形大学SCITAセンターサイエンスカフェ」を開催
～大人も子どもも自然科学を楽しく語ろう～
2. 小白川図書館所蔵の最古の元素周期表を学外で展示
3. 学生が大石田町の移住及び観光政策を提案
～3月の冊子発行に向け最終調整～
4. シンポジウム「ネットワークによる山形のダイバーシティ推進～現状と今後の展開」を開催

（参 考）

- 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時： 2019年2月21日（木） 11：00～11：45

場 所： 法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

学長定例記者会見（2月7日）発表者

1. 蔵王（山形）の樹氷はどのように全国に広まったか
～大正10年代から昭和10年代における文献・鳥瞰図・絵葉書等の資料から～

学術研究院 教授（地球科学） やなぎさわ ふみたか
柳澤 文孝
2. 企業の知財価値を見出し活かせるバンカー24名を新規認定
～「産学金連携コーディネーター」認定証授与式・記念講演を2/12開催～

学術研究院 教授（技術経営学／地域価値創成学研究所長） おの ひろゆき
小野 浩幸
3. 山形大学の研究紹介：寺院調査はおもしろい、日常生活史と史料の対話
～癌から新撰組まで～

学術研究院 教授（歴史学） だいき なおひこ
大喜 直彦
4. 純米大吟醸「山形大学燦樹（きらめき）2019」完成
～山形大学オリジナル純米大吟醸酒、2月1日より販売開始～

農学部附属やまがたフィールド科学センター 技術専門職員 たなか けんいち
田中 健一

山形大学生生活協同組合 専務理事 ふじまき まさゆき
藤巻 正之

鯉川酒造株式会社 製造主任 すずき よしひろ
鈴木 義浩

平成31年（2019年）2月7日

蔵王（山形）の樹氷はどのように全国に広まったか ～大正10年代から昭和10年代における文献・鳥瞰図・絵葉書等の資料から～

【本件のポイント】

- 蔵王（宮城）・西吾妻の樹氷は大正10年代から有名であったことを示す文献が見つかった。
- 昭和7年以前に発行された、樹氷が描かれた絵葉書が、上山・峨々温泉・五色温泉・志賀高原・菅平・八幡平などで確認された。
- 蔵王（山形）で樹氷が描かれた絵葉書が確認されるのは昭和8(1933)年以降である。昭和8年に日本山岳会が開催した山岳写真展がきっかけで蔵王（山形）の樹氷が全国的に有名となったと考えられる



蔵王（山形）の鳥瞰図（昭和5年(1930)）

【概要】

大正10(1921)年に慶応大学山岳部の年報「登高行」第3年に樹氷の写真と冬期初踏破の紀行文が掲載されたことから、蔵王（宮城）・西吾妻の樹氷が有名となった。大正10年代から昭和10年代にかけて全国的に行われた山岳への冬期初登頂により、志賀高原・菅平・八幡平・八甲田・ニセコなど日本各地で樹氷が発見された。昭和7(1932)年以前について、樹氷が描かれた絵葉書が、上山・峨々温泉・五色温泉・志賀高原・菅平・八幡平などで確認されている。蔵王（山形）ではコーポルトヒュッテ建設（昭和3(1928)年10月）、山形蔵王の樹氷の初撮影（昭和4(1929)年2月）、冬期の馬そり定期便運航開始（昭和5(1930)年）、案内人（昭和6(1931)年）が整備され、昭和5(1930)年から宣伝が行われるようになった。昭和8(1933)年に日本山岳会が東京で山岳写真展を開催した。この写真展に応募された写真は200余点にのぼっているが、そのうちの20点が蔵王の樹氷であった。この写真展をきっかけに蔵王（山形）樹氷が全国的に有名となったと推定される。

【経緯】

大正10(1921)年に慶応大学山岳部の年報「登高行」第3年に樹氷の写真と冬期初踏破の紀行文が掲載され、蔵王の樹氷が注目されるようになった。一方、大正10年代から昭和10年代にかけて全国的に行われた山岳への冬期初登頂により、志賀高原・菅平・八幡平・八甲田・ニセコなど日本各地で樹氷が発見され、鉄道省によって集客のための宣伝が行われた。

現在、蔵王といえば樹氷といわれるようになってきている。蔵王の樹氷がいつから全国的に有名となったのかを、文献・旅行案内書・鳥瞰図・絵葉書等から明らかにした。

(注1) 鳥瞰図：大正10年代から昭和10年代にかけて全国で鳥瞰図ブームが起きた。宣伝したい地域の特徴を単純明快に視覚的に表現できたことによる。

(注2) 絵葉書：名勝地の事物は写真が撮られて生写真として販売されていた。その後、集客が上ると旅館名入りの絵葉書が作られ宿泊客などに宣伝用に配布された。ある程度の販売が見込めるようになると絵葉書セット（1袋8枚組）として売り出されるようになった。なお、通信欄の上部には、昭和7(1932)年までは「きかは便郵」、昭和8(1933)年からは「きがは便郵」、戦後は「郵便はがき」と表記されている。

（お問合せ先）

学術研究院・山形大学認定 蔵王樹氷火山総合研究所
教授 柳澤文孝（環境科学）
電話 023-628-4648

【樹氷に関する状況の変化】

(1) 大正10年代

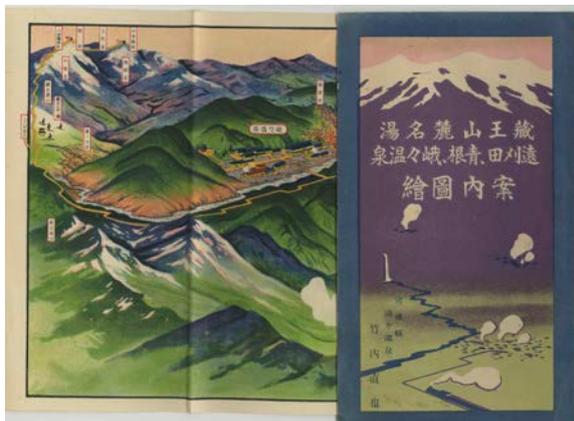
大正10(1921)年に慶応大学山岳部の年報「登高行」第3年に蔵王の樹氷の写真と蔵王冬期初踏破の紀行文が掲載された。大正11・12(1922・1923)年頃から賽の碓(さいのかわら)で旧制二高山岳部や東北帝国大学山岳部の冬期合宿が行われるようになった。これらをきっかけとして大正13(1924)年に賽の碓スキー場が開設され、スキー場のわきに二階建ての小屋が建設された。

米沢の五色温泉スキー場は明治44(1911)年に開設された日本最古のスキー場であるが、蔵王の樹氷によって五色温泉スキー場のある西吾妻にも樹氷が存在していることが認識されるようになった。

樹氷という名称、樹氷に関連する言葉(アイスモンスター・エビノシッポ)は、賽の碓や五色温泉に来ていた学生たちによって作られ、全国に広まったと考えられる。

(2) 昭和5(1930)年

鳥瞰図について、蔵王(宮城)では大正13(1924)年から、蔵王(山形)では昭和5(1930)年からスキー場(樹氷)の記載がある。蔵王(山形)ではコーポルトヒュッテ建設(昭和3(1928)年10月)、山形蔵王の樹氷の初撮影(昭和4(1929)年2月)、冬期の馬そり定期便運航開始(昭和5(1930)年)、案内人(昭和6(1931)年)が整備され、昭和5(1930)年から宣伝が行われるようになったことが分かる。



鳥瞰図(大正15(1926)年)



樹氷(五色温泉スキー場 昭和4(1929)年頃)

		宮城蔵王	山形蔵王
大正10年	鉄道旅行案内	記載なし	記載なし
大正13年	鉄道旅行案内	スキー場	記載なし
大正13年	高湯温泉案内	—	記載なし
大正15年	蔵王山麓名湯 遠刈田・青根・峨々温泉 案内絵図	スキー場	—
昭和2年	鳥瞰の山形	—	記載なし
昭和2年	車窓図絵	—	記載なし
昭和3年	宮城県下の温泉	スキー場	—
昭和4年	東北のスキー場	スキー場	—
昭和5年	山形県酢川高湯温泉	—	スキー場
昭和5年	鉄道旅行案内	スキー場	スキー場
昭和10年	蔵王山麓名湯 遠刈田・青根・峨々温泉 並 登山案内	スキー場	—
昭和11年以降	観光の山形県	—	スキー場
昭和10年代	山形の観光とバス案内	—	スキー場

(3) 昭和 6(1931)年

昭和 6(1931)年に書かれた、蔵王の樹氷は宮城県側にも山形県側にもあるが宮城県側しか知られていないとする文献が複数（「蔵王山のスキーコース：三浦博雅：アルピニズム創刊号」「冬の蔵王：織内信彦・村崎勝行：ネーベルメーヤ第1号」）見つかった。

(4) 昭和 7(1932)年

蔵王（山形）で最初に樹氷の写真が撮影されたのは昭和 4(1929)年である。蔵王（山形）では昭和 7(1932)年以前の夏の絵葉書は見ついているが、蔵王（山形）では冬期の絵葉書は確認できていない。確認できたのは昭和 8(1933)年以降に発行されたものである。このことは、昭和 7(1932)年以前について、蔵王（山形）への宿泊客は、夏期は多かったが冬期は少なかったことを意味している。ちなみに、山形市内では昭和 7(1932)年以前に発行された冬期の絵葉書は見ついている。

一方、昭和 7(1932)年以前に発行された、樹氷が描かれた絵葉書が、上山・峨々温泉・五色温泉・志賀高原・菅平・八幡平などで確認された。なお、五色温泉では遅くとも昭和 4(1929)年には発行されていたと推定される樹氷が描かれた絵葉書が見つかった。

大正 10 年代から昭和 10 年代にかけて全国的に行われた山岳への冬期初登頂により、志賀高原・菅平・八幡平・八甲田・ニセコなど日本各地で樹氷が発見された。関東大震災（大正 12(1923)年）・大正から昭和への移行期に一時停滞していたが、昭和 2(1927)年以降になると、宮城蔵王・西吾妻・志賀高原・菅平・八幡平等樹氷のある地域について鉄道省による観光集客活動（観光資源の探査・ホテル建設・鉄道敷設・宣伝など）が活発化している。昭和 7(1932)年以前に発行された樹氷の絵葉書が全国で見つかったことは、鉄道省の宣伝活動を反映したものと考えられる。

なお、昭和 7(1932)年以前に発行された樹氷が描かれた絵葉書が、上山において見つかった。このことは、大正 10 年代から、峨々温泉から山越えて上山にいたる、あるいは、峨々温泉から山越えて高湯温泉そして上山にいたるルートが確立していたことを意味する。

(5) 昭和 8(1933)年

昭和 8(1933)年に日本山岳会が東京で山岳写真展を開催した。この写真展に応募された写真は 200 余点にのぼっているが、そのうちの 20 点が蔵王の樹氷であった。この写真展をきっかけに蔵王（山形）樹氷が全国的に有名となったと推定される。なお、蔵王の樹氷の写真に応募したのは山形以外の撮影者（例えば、長澤利彦・角田吉夫など）である。昭和 6・7(1931・1932)年頃から樹氷の写真の撮るための宿泊者があったと推定されるが、蔵王（山形）に記録は残っていない。

(6) 昭和 9(1934)年以降

蔵王（山形）では、昭和 9(1934)年に全国蔵王高湯間滑降レース大会・蔵王スキーツアー、昭和 10(1935)年に塚本閻治監督による「Mt.Zao」の撮影、昭和 11(1936)年に円谷英二監督による「日本スキー発達史」の撮影や有名写真家たちを招いての樹氷撮影会が行われ、蔵王（山形）の樹氷の名前が全国的に定着していったと考えられる。

【まとめと今後の展望】

山形蔵王といえば樹氷といわれるようになっていく。しかし、蔵王（山形）の樹氷が有名となったのは昭和 8(1933)年以降であることがわかった。

樹氷に関する文献が次々と見つかる。今後とも新たな文献が見つかることが期待される。

本研究は 2019 年 9 月に山形で開催される「雪氷研究大会 2019 山形大会」で発表する予定である。

	西吾妻 五色温泉	宮城蔵王 峨々・青根・遠刈田	山形蔵王 高湯温泉・蔵王温泉	冬期初登頂	その他
明治44年	スキー場開設				
明治45年					
大正元年					
大正2年					
大正3年			樹氷発見	蔵王山	
大正4年					
大正5年					
大正6年					
大正7年					
大正8年				羊蹄山	
大正9年					
大正10年		慶応大学山岳部蔵王山冬期 初踏破で樹氷撮影		吾妻山	
大正11年		旧制二高冬合宿(?)			
大正12年		東北帝大山岳部冬期合宿			関東大震災
大正13年	(登山行)宗川旅館の宣伝文 に樹氷	賽の河原スキー場開設・新 築小屋建設	矢吹事件		
大正14年			高湯にスキー場建設	菅平根子岳	
大正15年				八甲田山	
昭和元年					
昭和2年		官報に記載		志賀高原横手山・ 八幡平	登山行(蔵王山越え上山 へ)
昭和3年		樹氷撮影(仙台鉄道局)	コーポルトヒュッテ建設		
昭和4年	樹氷の絵葉書(宗川旅館)	帝大ヒュッテ建設・東北のス キー場(仙台鉄道局)・日本 案内記(鉄道省)・登山行(エ ピノシッポの記載あり)	樹氷初撮影		菅平ホテル(鉄道省)のバ ンフレットに樹氷・スキー へ(鉄道省)・宮城・蔵王・ 西吾妻・ニセコ等
昭和5年		指導標完成	冬期の馬糞定期便運航開始		
昭和6年			案内人		陸奥曲(みちのくぶり)(仙 台鉄道局)・アルピニズム 創刊号・ネーベルメーヤ第 1号
昭和7年					
昭和8年					山岳写真展に樹氷の写真 (日本山岳会)
昭和9年			全国蔵王高湯間滑降レー ス大会・蔵王スキーツアー		
昭和10年			「Mt.Zao」塚本閣治監督		
昭和11年			「日本スキー発達史(お蔵 入)」円谷英二監督・樹氷撮 影会(今泉正路・柴崎高陽ほ か)・蔵王小屋建設		

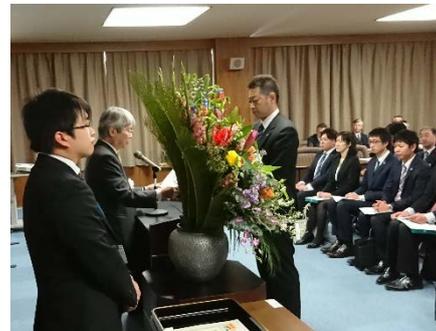
2019年2月7日

企業の知財価値を見出し活かせるバンカー24名を新規認定

～「産学金連携コーディネーター」認定証授与式・記念講演を2/12開催～

【本件のポイント】

- 知財経営支援バンカー育成カリキュラム^(※)により、企業の知財価値を見出し活かせるコーディネーターが新たに24名誕生し、コーディネーターは全国最大規模の総計290名に
- スキルアップ研修によりシニアコーディネーターとして23名を認定
- 認定授与式では、金融庁から講師を迎え、今後の産学官金連携の在り方などについての講演も実施



【概要】

山形大学では、平成19年(2007年)より金融機関職員を対象とした「産学金連携コーディネーター研修」を実施しており、研修を受講し、一定条件を満たした者に対し「山形大学産学金連携コーディネーター」として認定を行います。今年度はこれまでの実践型カリキュラムに、新たに開発した「知財経営支援カリキュラム」(知財経営支援バンカー育成カリキュラム)を加えた研修を実施しました。研修を受講し、条件を満たした24名が新たにコーディネーターとして認定され、本コーディネーターは全国で最大規模の総計290名となります。また、既認定者を対象とした「スキルアップ研修」も行っており、シニアコーディネーターとして、23名が認定されます。

2月12日に行われる認定証授与式では、金融庁地域金融生産性向上支援室の日下智晴室長を迎え、地域金融の未来と地域中小企業の活性化に向けた今後の産学官金連携の在り方について講演をいただく予定です。

【産学金連携コーディネーターについて】

山形大学では、平成19年(2007年)より金融機関職員を対象とした「産学金連携コーディネーター研修」を実施してきました。研修を受講し、一定条件を満たした受講者に対し、「山形大学産学金連携コーディネーター」として認定を行っています。今年度はこれまでの実践型カリキュラムに、新たに開発した「知財経営支援カリキュラム」(知財経営支援バンカー育成カリキュラム)を加えた研修を実施しました。

県内金融機関から31名の受講者があり、うち条件を満たした24名が新たに本認定を受けます。これで、本コーディネーターは全国で最大規模の総計290名となります。また、既認定者を対象とした「スキルアップ研修」を開講しており、一定条件を満たすこととなった23名を新たに「山形大学産学金連携シニアコーディネーター」として認定します。

認定者は所属する金融機関があるエリアにて企業の技術・経営等の課題解決支援にあたります。認定されたコーディネーターが年間約800件の相談に対応しています。山形大学では、今後も各金融機関との連携を強化し、このような地域イノベーションの一層の創出を図っていきます。

【平成30年度「産学金連携コーディネーター」認定証授与式】 別紙をご覧ください

※ 知財経営支援バンカー育成カリキュラム：

知財経営とは、自らの強みを見出し、知的財産をうまく活用しながら事業を成長させていくことができる経営のこと。中小企業内に眠っている知的財産(目に見えない強み)を「発掘」し、「評価」し、「活かす」ことで、中小企業が知財経営することを、地域金融機関職員が支援できる実践的スキルを身に付けるカリキュラム。経済産業省の平成30年度「地域中小企業知的財産支援力強化事業」の採択を受け、山形大学が独自に開発したもの。

お問い合わせ 山形大学地域価値創成学研究所
所長 小野浩幸(学術研究院教授)
産学連携研究員 鈴木昭一
TEL: 0238-26-3265

山形大学認定産学金連携コーディネータ制度

<概要>

- 目的：県内すべての地域金融機関を対象とし、中小企業を取り巻く「経営」「事業」「技術」「市場」の全体を把握分析する実践的スキル向上を図る。
- 内容：山形大学独自の教材による基礎的知識の習得に加え、地域企業の協力のもと事業現場に赴き課題の分析と課題克服に向けたソリューション提案までを行う「PBL；Project Based Learning」方式による研修制度
- 特徴：認定制度・年度毎の更新制度

コーディネータエキスパート

実務経験5年以上
基準以上の実績

シニアコーディネータ



H23～H30の認定者数 **累計 130名**
(H30年度有効認定者 108名)
H23:10名 H24:10名 H25:13名 H26:11名
H27:13名 H28:21名 H29:29名 H30:23名

産学金連携コーディネータ



H19～H30の認定者数 **累計398名**
(H30年度有効認定者 290名)

H19:22名 H20:23名 H21:43名 H22:29名 H23:13名 H24:10名
H25:34名 H26:53名 H27:49名 H28:56名 H29:42名 H30:24名

産学金連携コーディネータ認定
研修1か月後の実践レポート

スキルアップ研修
H23～H30の受講者数
計142名

H23:11名 H24:11名
H25:19名 H26:16名
H27:24名 H28:24名
H29:19名 H30:18名

産学金連携コーディネータ研修受講 (県内13機関が参加)



H19～H30の受講者数 **計522名**
H19:57名 H20:23名 H21:56名 H22:40名
H23:21名 H24:17名 H25:43名 H26:63名
H27:58名 H28:61名 H29:52名 H30:31名

山形大学認定「産学金連携コーディネーター」 平成30年度 認定証授与式次第

1. 日時 平成31年 2月12日 (火) 13時00分～17時30分
2. 場所 山形国際ホテル 2階 平成の間 (東)
(山形市香澄町3丁目4-5)

3. 式次第

《 第1部 》 産学金連携コーディネーター認定証授与式

- 13:00 開会の挨拶 山形大学理事 (副学長) 大場 好弘
- 13:05 御来賓紹介・御祝辞
(御来賓) 東北財務局 山形財務事務所 所長 佐藤 賀之 様
東北経済産業局 地域経済部 次長 渡邊 善夫 様
- 13:15 認定証授与 (新規認定者代表)
- 13:20 認定証授与 (シニアコーディネーター認定者代表)
- 13:25 認定証授与 (更新者代表)
- 13:30 認定者・修了者写真撮影

—— 休憩、会場設営 ——

《 第2部 》 記念講演、支援事例発表

- 13:50 記念講演
『地域金融機関の金融仲介と生産性向上』
金融庁地域金融生産性向上支援室 室長 日下 智晴 氏
- 15:20 産学金連携コーディネーター研修実績概要説明
山形大学 学術研究院 教授 小野 浩幸
- 15:40 支援事例発表 (発表15分、公開ディスカッション5分)
・スキルアップ研修優秀プレゼン者 3名
- 17:00 閉会の挨拶 山形大学 学術研究院 教授 小野 浩幸

*第2部の支援事例発表 (15:40～) は非公開となります。

以上

御来賓

関東財務局 金融安定監理官	平井 康夫 様
山形県議会議員 商工労働観光常任委員長	柴田 正人 様
山形県議会議員 商工労働観光常任副委員長	矢吹 栄修 様
山形県商工労働部 次長	木村 和浩 様
山形県企業振興公社 常務理事	脇川 清道 様
山形県企業振興公社 経営支援部 次長	杉原 貴幸 様
信金中央金庫東北支店山形県分室 所長	江副 弘晃 様

御来賓（連携金融機関）

荘内銀行	営業推進部 部長	皆川 陽 様
鶴岡信用金庫	常務理事	高城 傑 様
新庄信用金庫	常務理事	阿部 徳治 様
山形信用金庫	常務理事	長岡 洋 様
米沢信用金庫	常勤理事	安孫子 正雄 様
北郡信用組合	常務理事	菅原 正俊 様
山形中央信用組合	常務理事	河野 毅 様
山形第一信用組合	常務理事	高梨 清男 様
商工組合中央金庫	山形支店 支店長	小宮 亮 様
山形信用保証協会	企業支援部 部長	青木 和夫 様

PRESS RELEASE

山形大学の研究紹介

平成31年（2019年）2月7日

寺院調査はおもしろい、日常生活史と史料の対話 ～癌から新撰組まで～

【本件のポイント】

- 歴史を支える多くの名もない人々の生活の総体を歴史と考え、名もない人々の日常の営みを明らかにする歴史研究。
- 民衆と接する普通の寺院の史料から日常生活史を考えます。
- 寺院調査は、その地域や生活の歴史を豊かに構築する真の「お宝」に迫ることのできる手段なのです。



▲「善照寺玄定住職」5人目医師舌がん診断記事

【概要】

日本史はおおよそ事件史、英雄史、つまり政治史に偏っています。しかし歴史を支えるのは英雄ではなく、多くの名もない人々です。山形大学学術研究院の大喜直彦教授（歴史学）は、この名もない人々の生活の総体を歴史と捉え、名もない人々の日常の営みを明らかにすることから、歴史を研究しています。その日常生活研究で有益な史料は、民衆と接する寺院史料です。寺院調査は、一般的には有名な寺院が対象となることが多いですが、大喜教授は、民衆仏教で著名な本願寺派の真宗寺院(西本願寺所属寺院)を対象として、普通の寺院の史料から日常生活史を考えます。そして、大喜教授は次のように言います。昨今、テレビ番組で「お宝」=価値あるモノ、それ以外は価値ないモノと理解されがちです。その「お宝」の価値も金額の高低で示されます。真の史料の価値は金額ではありません。その地元や所蔵者にとって意味あるものは、すべて「お宝」なのです。寺院調査は、その地域や生活の歴史を豊かに構築する真の「お宝」に迫ることのできる手段なのです。

【背景】

史料調査に行くと、調査先の寺院の住職が、「うちにはそんなお宝はない」とか、「焼失した」「破棄した」など、もう何もないようにお話しされることが多いのです。しかし調査をすると、住職がいうほど「ない」わけではなく、実はそれなりに伝来しているのです。テレビで鑑定番組が人気を博しているため、どうやら高価なモノ=「お宝」が史料と理解しているようです。それゆえ、自分の寺には「ない」と説明しているようです。また「焼けた」としても、史料の何割かは残ることも多々あります。

史料調査は、高価な「お宝」を期待していません。価値とは寺院や地域、社会における史料の価値です。重要なことはその史料があるからこそ、寺院がわかる、地域がわかる、社会がわかる、それが価値です。国宝が素晴らしい史料で、特に珍しくもない地元のものは価値がないということではありません。だから有益なものであれば、紙切れでも、いわゆる「お宝」なのです。つまり寺院の史料は視点を変えれば、「ない」のではなく、もっとあるのです。これに迫るためには調査しかないのです。

【研究手法】

- ①依頼：真宗寺院へ依頼
- ②寺院調査：史料調査、写真撮影、調書作成など
- ③査対象の分析：整理、翻刻、解読、調査・分析
- ④調査対象：1) 裏書(木仏本尊・阿弥陀如来絵像・聖徳太子・七高僧・親鸞聖人絵像・本願寺歴代絵像・親鸞聖人絵伝・各寺院歴代絵像など)、2) 名号(十字・九字・六字)、3) 聖教(御文章など)、4) 書画・文学類(一行物・和歌・額字・絵画など)、5) 法名状、6) 免状、7) 免物添状、8) 御印書、9) 書状類(宗主御書 [消息・書状]・添状・坊官書状・家臣書状・奉書 [坊官・奉行衆]・達書)、10) 請取状
- ⑤公表：論文、講義、講演、記者発表など

お問い合わせ

学術研究院 教授（歴史学・地域教育文化学部担当）大喜 直彦(ダ 侍ナヒコ)

TEL 023-628-4391 メール：nkoredeiinodad@e.yamagata-u.ac.jp

【研究成果】

寺院調査での真の「お宝」を2例取り上げて説明します(現段階で所蔵者の許可がとれる分のみ)。

① 大阪府茨木市善照寺所蔵「善照寺玄定住職」(記録)

これは、安永8年(1779)、善照寺第8代玄意が、第9代玄定へ住職を譲った時の、よくある記録ですが、ここには日本史上、珍しい癌(舌がん)の記述と、病を通してみえる住職や地元の人々の生活が記録されていたのです。癌で著名な話は、文化元年(1804)10月13日、華岡青洲が世界で初めて全身麻酔を用いた乳癌手術です。しかし本記録は、青洲の手術より、約30年前の史料なのです。癌の歴史的史料は、現在までほとんど確認されておらず、おそらく本記録の癌記事は、日本史上かなり早い段階の記事と考えられます。その史料が普通の町にある寺院に伝来していたのです。

この記録で玄意は5人の町医者を受診していたことも判明しました。しかもすべての医者から、治らない、必ず死ぬと同じ診断を受けていたのです。ここから当時、町医者がすでに癌の知識を共有していた点が明らかになりました。5度の診断とは命乞いに必死な住職かと思えば、そうではなく、自分の生きている間に宗門改めを遂げなければと、その役務完遂のため、治病に奔走していたのです。ある地域の小さな寺院の史料には、日本史上貴重な癌の記述、そして必死に生きる人間模様が活写されていたのです(「読売新聞」2017年8月22・28日掲載)。

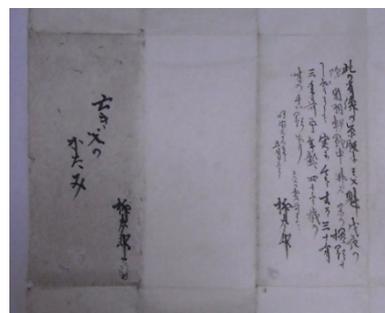
② 京都市長圓寺所蔵「島田魁(か)写真」

これは新撰組で生き残った島田魁の写真です。世間に流布する写真はこれなのですが、その所蔵は意外に不明確でした。しかし調査で長圓寺所蔵であることが確認されました。さらに写真包紙の墨書から、写真原版が奥羽戦争(戊辰戦争)転戦時、フランス人の某により撮影されたこと、そして写真が魁41歳時のものとわかりました。

墨書の日付は明治33年(1900)5月11日で、魁の没日が3月20日ゆえ、約2ヶ月後のものです。また「亡父の靈前にて」の記述からこの写真は、島田柳太郎氏がおそらく父魁の四十九日法事ために、形身として長圓寺に納めたものと判断できます。「亡き父」から柳太郎氏が魁の子どもとわかり、したがってこの墨書の内容は信憑性が高いと判断できます。本写真は流布していますが、この墨書のことは知られていませんでした。本調査でこれまでにない多くの情報が得られました。幕末を駆け抜け、生き残った新撰組の隊士の史料は、普通の寺院に大切に所蔵されていたのです(「京都新聞」2016年5月28日掲載)。



▲「島田魁写真」



▲「写真包紙」墨書部分

【今後の展望】

寺院伝来史料群は多様で、上記以外にも各種の史料は伝来しています。例えば、手習い、儒教書、物語・和歌・連歌などの文学書、科学書、旅日記、山水画・人物画ほかの絵画などです。真宗寺院には直接関係のない史料も多いですが、これらを含めて当時の寺院の活動なのです。

一番大事なことは、このような史料を調査できる人材の育成です。これに尽きます。史料調査は、研究書を読んでもできるものではありません。指導者と一緒に調査の経験を積むことが大切です。何年もかけて。そのなかで、調査のノウハウ、古文書の解読や、史料の価値やその判断をできる能力をつけることができるのです。

現在、大学でも調査という地道な研究活動は、行いづらい環境にあります。この経験や知識・技術を若い世代に引き継げないと、近未来には調査できる人がいない事態に陥ります。それは地域や名もない人々の歴史を失うということです。私としては、まず山形市内に4ヶ寺ある本願寺派の真宗寺院を調査する予定です。これにより地元の史料の発掘、また所蔵者にその価値を理解してもらい保存につなげたいと考えています。

※用語解説

1. 西本願寺：浄土真宗本願寺派本願寺の本山(京都市下京区七条堀川)。親鸞を開祖とする。西本願寺所属寺院は、全国に約1万か寺、門徒数約800万人。日本最大級の教団である。
2. 宗門改め：江戸幕府がキリシタン禁圧・摘発のために設けた制度。檀那寺が、檀家や各人ごとに宗旨を調べ、信者であることを証明し、毎年村ごとに宗門人別帳が作成される。
3. 島田魁：文政11年(1828)～明治33年(1900)3月20日。新撰組隊士。二番組伍長などを努める。明治時代まで生き残った数少ない隊士の1人。池田屋事件に関わり、五稜郭での降伏まで参戦。巨漢、怪力で有名。

2019年2月7日

純米大吟醸「山形大学燦樹（きらめき）2019」完成 ～山形大学オリジナル純米大吟醸酒、2月1日より販売開始～

【本件のポイント】

- 農学部附属やまがたフィールド科学センターエコ農業部門（高坂農場）で栽培された米を原料に使用した純米大吟醸酒が今年も完成した。
- 原料米には高坂農場産出羽燦々を100%使用。
- 今年も売上の一部を学生への支援に活用する。



【概要】

山形大学オリジナル純米吟醸酒の新酒が完成し、2月1日より販売を開始しました。農学部附属やまがたフィールド科学センターエコ農業部門（高坂農場）で栽培された米を原料に使用した山形大学オリジナル純米大吟醸酒は、2007年から山形大学生協で販売しています。原料米の酒造好適米「出羽燦々」は、特別栽培の認証を受け、慣行より50%以下の農薬・化学肥料で栽培したものです。今年は、1900本（約342万円）の販売を予定しており、売り上げの一部は、学生への支援として活用されます。

【山形大学燦樹（きらめき）2019】

醸造本数：生酒700本（720ml）、熱処理した火入酒1,200本（720ml）の合計1,900本

価格：生酒及び火入酒共に、720ml瓶入り1本1,800円（税込）

小白川・飯田・米沢・鶴岡の各キャンパス内にある山形大学生協の店舗のほか、同組合のホームページからも通信販売にて購入することができます。 (<https://www.yamagata.u-coop.or.jp/>)

【原料米は附属農場産の「出羽燦々」】

原料米には、農学部附属やまがたフィールド科学センターエコ農業部門（高坂農場）で栽培された酒造好適米「出羽燦々」を100%使用。山形大学燦樹（きらめき）2011より、特別栽培の認証を受け慣行より50%以下の農薬・化学肥料で栽培しています。

【醸造元】

鯉川酒造株式会社（山形県東田川郡庄内町余目字興野42）※2011～2017にも醸造いただいています。

【売り上げの一部は学生の支援に】

今年は、1900本（約342万円）の販売が予定されており、完売した場合には、約34万円が「山形大学基金」に寄附され、学生への支援として活用されます。

お問い合わせ

山形大学鶴岡キャンパス事務室企画広報室 TEL 0235-28-2911

山形大学生協同組合 小白川コンビニ店 Ciel TEL 023-641-8662

2019年2月7日
山形大学

* 詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 「山形大学SCITAセンターサイエンスカフェ」を開催 ～大人も子どもも自然科学を楽しく語ろう～

科学を身近に感じ楽しんでもらうため、SCITAセンター学生スタッフが初めて企画しました。
大人を対象としたサイエンスカフェ、子どもを対象とした科学実験イベントを同時開催します。

開催日時：2019年2月23日（日） 14:00～16:00

会場：観光文化交流センター「山形まなび館」 交流ルーム

募集人員：大人 30名 子ども 30名 計 60名

2. 小白川図書館所蔵の最古の元素周期表を学外で展示

2019国際周期表年公認イベントとして開催される愛媛県総合科学博物館企画展に本学でも展示協力を行うこととなりました。旧制山形高等学校で授業に使用されていた元素周期表（製品として製作された周期表としては最古と推定される1925年製）などを貸し出します。

3. 学生が大石田町の移住及び観光政策を提案

～3月の冊子発行に向け最終調整～

山形大学人文社会科学部の学生たち8名が地域課題解決事業に取り組み、少子高齢化時代における小規模市町村の移住及び観光政策について、大石田町へ提案します。

（報道機関の取材は可能ですが、一般公開はありません。）

日時：2019年2月21日（木） 10:00～12:00

会場：大石田町役場

4. シンポジウム「ネットワークによる山形のダイバーシティ推進～現状と今後の展開」を開催

山形大学、大日本印刷株式会社研究開発センター、山形県立米沢栄養大学の3機関が女性研究者の活躍推進を図るために取り組んでいる「ダイバーシティ研究環境イニシアティブ事業」のシンポジウムを開催します。

開催日時：2019年3月8日（金） 14:00～16:30

会場：小白川キャンパス法人本部3階第一会議室

[※裏面へ続く](#)

※これまでの定例会見でお知らせしたもので、開催が迫っているイベント

◎国際シンポジウム「日台における宗教と思想研究」

～日本と台湾の仏教と儒学に注目して～

日 時：2019年2月10日（日）13：00～

会 場：小白川キャンパス C1（人文社会科学部1号館）201教室

◎モンテディオ山形杯「雪中棚田サッカー大会 in 大蔵 2019」

日 時：2019年2月16日（土）8：30～13：30

会 場：山辺町大蔵の棚田

平成31年（2019年）2月7日

「山形大学SCITAセンターサイエンスカフェ」を開催 ～大人も子どもも自然科学を楽しく語ろう～

【本件のポイント】

- 山形大学SCITAセンター学生スタッフが企画して本学教員の協力を得て、今話題の外来生物の問題を通して科学の楽しさを伝える。
- 親と子に共通の科学の話題を提供して、帰宅後は家庭で楽しく科学の話題を展開することができる。
- 途中でお菓子とお茶を楽しみながら大人には講演、子供には科学実験で科学を身近に感じてもらう。



【概要】

山形大学 SCITA センター学生スタッフは、平成31年2月23日（土）に、観光文化交流センター「山形まなび館」（山形市本町1-5-19）において、世代間でより科学を身近に感じ楽しんでもらうため、大人を対象としたサイエンスカフェ、子どもを対象とした科学実験イベントを同時開催します。

今回初めて学生が企画・実施するもので、サイエンスカフェでは専門家による一般人向けの講演を基に、参加者間がディスカッションを行い、提供するテーマと身近な社会との関連性を意識してもらうことで、科学の知識・理解を深めます。科学実験イベントは、別室にてサイエンスカフェと同テーマでショーや実験など実施し、親子連れでも気軽に参加できるよう配慮しました。親子間での共通の話題を提供することで、イベント終了後も家庭で科学についての共通話題を展開することができるものと考えています。

【イベント内容】

開催日時：平成31年 2月23日（日） 14時～16時 途中コーヒブレイク
会場：観光文化交流センター「山形まなび館」 交流ルーム
募集人員：大人 30名 子ども 30名 計 60名

<サイエンスカフェ> 大人向け

会場：観光文化交流センター「山形まなび館」 交流ルーム6
テーマ 「外来生物から考える」
講師 山形大学学術研究院 教授 小田 隆治

<科学実験イベント> 子供向け

会場：観光文化交流センター「山形まなび館」 交流ルーム8
テーマ：「外来生物って？」
対応：山形大学SCITAセンター学生スタッフ

※ 山形大学 SCITA センター学生スタッフは、子供たちの理科離れに歯止めをかけようと科学の啓蒙を目的とするボランティア団体です。主に小学生以下を対象に科学実験教室等を開催し、子どもにも保護者にも好評を得ています。独自の活動に加え、やまがた「科学の花咲く」プロジェクトのサイエンス・コミュニケーター（スライムマイスター、クラゲマイスター、蔵王マイスター、月山マイスター）が実施している地域や家庭で科学の不思議さや面白さを教えるイベント等でも活躍しています。

お問い合わせ
山形大学SCITAセンター（棚井）
電話 023-628-4517

大人と子どもの!



Science Cafe



～山形大学 SCITA センターサイエンスカフェ～

自然科学についてみんなと明るく楽しく語り合ってみませんか?

サイエンスカフェは「科学と社会の交差点」

知的で自由な語らいの空間への誘い…

第1回 外来生物から考える

外来生物と聞くと何を思い浮かべますか?

セイヨウタンポポ、ヒアリ、ブラックバス、アナグマ…などいろいろいますね。

これらの生物にどういったイメージを持っていますか?

悪役?本当にそうでしょうか。

大人はディスカッション、子どもはサイエンスゲームを通して外来生物や科学について考えてみませんか。

視野が広がり、深く考えられるようになるかもしれません。

第2回は、
3月26日(火)に
予定しています!

日 時: 2月23日(土)
13:30 受付開始
14:00 大人はディスカッション、子どもは科学体験イベント
途中で軽食と飲み物によるコーヒースタイルブレイクをおこないます
16:00 頃終了予定

場 所: 山形まなび館 地下1F 交流ルーム6・8
〒990-0043 山形市本町1-5-19

ディレクター: 山形大学理学部 2年 齋藤希

ナビゲーター: 山形大学 地域教育文化学部 教授 小田隆治 (理学博士)

対 象: 大人・中学生以上(定員30名)
子ども・年長～小学校6年生(定員30名)
(お申込多数の場合は抽選とさせていただきます)
親子での参加も歓迎します!

参加 費: 無料

お申込締め切り: 2月14日(木)

申込用紙の郵送・メール・お電話にて受け付けます

お問い合わせ先: 山形大学 SCITA センター

TEL.023-628-4506(山形大学 SCITA センター事務)



申込用紙はこちらから

主催: 山形大学 SCITA センター学生スタッフ / 後援: 山形市教育委員会

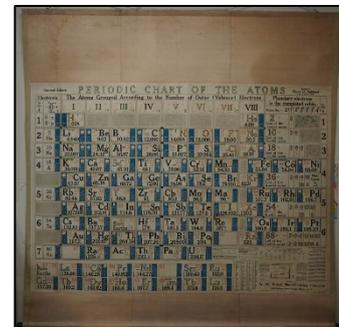
やまがた若者チャレンジ応援事業

2019年2月7日

小白川図書館所蔵の最古の元素周期表を学外で展示

【本件のポイント】

- 愛媛県総合博物館で開催される周期表^(※) 発見150周年の企画展に本学小白川図書館、栗山恭直教授が協力
- 本学小白川図書館所蔵の元素周期表（製品として製作された周期表としては最古と推定される1925年製）を企画展に貸出します
- 当該元素周期表が本学以外で公開されるのは2012年の国立博物館以来2度目



【概要】

2019年は1869年にロシアの化学者メンデレーエフが周期表を発見してから150周年の節目の年であり、ユネスコによって国際周期表年と宣言された年です。2019国際周期表年公認イベントとして開催される愛媛県総合科学博物館企画展に本学でも展示協力を行うこととなり、山形大学小白川図書館で所蔵する1925年製のハーバード周期表を貸出し、展示を行うこととしました。当該資料は、製品として製作された周期表としては最古と推定されており、通常、小白川キャンパスのSCITAセンターで展示しています。当該資料が本学以外で公開されるのは2012年の国立科学博物館以来2度目のことです。

今回の企画展には、理化学研究所や物質・材料研究機構といった研究所や国立科学博物館といった博物館施設、大学研究者他から多くの周期表に関連する実物資料が集まる中、本学からも展示会の重要な位置を占める周期表とその解説書（1937年版および1947年版）の計3点の実物資料を貸出します。

【展示資料について】

ハーバード周期表（1925年製）は、本学の前身である旧制山形高等学校（1920.4-1950.3）において授業に使用された教育用掛図で、歴史ある貴重な資料です。2011年に小白川図書館書庫にて複数の掛け軸と共に発見され、本学オープンキャンパスでも展示されたほか、2012年には国立科学博物館でも展示されました。出版当初の製品で、現存する最古のものであると推定されています。同時に公開する資料は、この周期表の解説書であり、1937年度版と1947年度版です。後年になるほど解説の質と量が増えることが比較でき、ハーバードの周期表の教育や研究の現場における活用具合が知れる重要な資料です。

【愛媛県総合科学博物館 企画展「周期表発見150周年 元素のマトリクス~星々から生命への贈り物~」】

約400点の実物資料や体験展示を交えて、楽しみながら周期表の歴史や元素の世界を学習できる展示会。化学、技術、生物、鉱物、宇宙といった科学分野から文学、美術、歴史、考古まで、さまざまな場面で登場する元素とその性質について周期表をキーワードに解き明かす。

開催期間：平成31年2月23日（土）～平成31年4月7日（日）

展示協力：栗山恭直（山形大学学術研究院教授）、山形大学小白川図書館ほか

※周期表：周期律に基づいて元素を配列した表。初めは原子量の順に並べたが、現在では原子番号順に改められている。並べ方によって短周期型と長周期型とがある。縦の配列を族、横の配列を周期という。元素周期表。周期律表。

お問い合わせ

学術研究院教授 栗山恭直（理学部担当）／小白川キャンパス事務部教務課図書担当（会田忠弘）
TEL 023-628-4914 メール jsagaku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

平成31年（2019年）2月7日

学生が大石田町の移住及び観光政策を提案

～ 3月の冊子発行に向け最終調整 ～

【本件のポイント】

- 人文社会科学部の学生たちが、少子高齢化時代における小規模市町村の移住及び観光政策について、授業で取り組んだ大石田町の地域課題解決事業
- 3月の冊子発行にむけた最終調整のため、尾花沢市・大石田町広域連携推進協議会へ2月21日提案
- 冊子発行の際には記者会見で発表予定



【概要】

山形大学の山田浩久教授（地誌学／人文社会科学部担当）は、尾花沢市・大石田町広域連携推進協議会から委託を受け、学生による地域課題解決事業に取り組んできました。人文社会科学部の学生8名は、2つのグループに分かれ、小規模市町村の移住政策、観光政策の2つの課題の解決に向けて、検討をすすめてきました。現地調査や授業での検討を重ね、移住政策「アクティブシニアを対象にした移住の提案～セカンドライフを大石田（ここ）で～」、及び観光政策「みんなが主役になれるまち大石田～あなたが創る旅物語～」という2つの提案をまとめましたので、これら2つを2月21日に大石田町へ提案します。今後、町役場職員との意見交換等を経て、提案にさらに磨きをかけ、3月に冊子として発行する予定としています。発行時には、改めて記者会見で発表する予定です。

【少子高齢化時代における小規模市町村の移住及び観光政策に対する学生からの提案】

日時：2019年2月21日（木）10:00～12:00

場所：大石田町役場

内容：学生達が考案した2つの政策を町に提案します。

「アクティブシニアを対象にした移住の提案～セカンドライフを大石田（ここ）で～」

人口減少・少子高齢化に悩む大石田町の定住人口の増加を図るため、移住者の招致に着目した解決策の提案

「みんなが主役になれるまち大石田～あなたが創る旅物語～」

地域ブランドの確立のために、訪れる人にインパクトを与えられるまちのコンセプトづくりが必要との考えから、まち全体に観光機能を持たせて、それらのつながりを生み出す「街宿」の提案

※学生が町の関係者への提案を行うもので、一般の方は参加できません。

お問い合わせ

学術研究院 教授 山田浩久（地誌学／人文社会科学部担当）

TEL 023-628-4246 メール hyamada@human.kj.yamagata-u.ac.jp

3 機関合同シンポジウム

託児可（申込制）

聴講無料

WEB申込可

日 時

平成31年3月8日（金）

14：00～16：30

場 所

山形大学小白川キャンパス
法人本部3階 第1会議室

内 容

基調講演

「東北公益文科大学の取組とネットワークに期待すること」

東北公益文科大学大学院 公益学研究科長

教授 **伊藤 真知子 氏**

報 告

- ◆ 山形大学の男女共同参画に関する 実態調査の報告
- ◆ 「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」
男女共同参画推進状況アンケートの報告
- ◆ 全国ネットワーク中核機関(群)について

※当日スケジュール等の詳細は本事業のホームページにてご確認ください。

<http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/diversity/>

情報交換会 16：30～17：00

セミナー終了後に参加者の交流のための情報交換会を開催します。事前申込み不要です。ぜひご参加ください。

問合せ・申込先

山形大学男女共同参画推進室 米沢分室

TEL0238-26-3356 FAX0238-26-3398

y-danjoyz@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



ネットワークによる
山形のダイバーシティ推進
～現状と今後の展開～

3 機関合同シンポジウム ネットワークによる山形のダイバーシティ推進 ～現状と今後の展開

山形大学、大日本印刷株式会社研究開発センター及び山形県立米沢栄養大学は、文部科学省 科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）に採択され、連携して女性研究者の活躍推進を図るため、各種の事業を展開しています。

このたびは、山形県内の女性研究者の現状や課題を把握し、その活躍を促進するため「ネットワークによる山形のダイバーシティ推進」と題し、シンポジウムを開催します。

申込み
期限

2019年2月27日(水)

切り離し不要。このままお送りください。

申込書

FAX：0238-26-3398

連絡先等をご記入ください。※選択項目はレ点をご記入ください。

お名前			
所属先			
電話番号			
Eメール アドレス			
【託児希望】 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし			
託児を希望される場合は、2月22日(金)までにお知らせください。 別途、託児に必要な情報を確認させていただきます。			
＜託児利用者のみ＞お子様の情報			
(ふりがな) お名前		年齢	

※ご記入いただいた個人情報は、厳密に管理し、他には一切使用いたしません。

問合せ・申込みはコチラ



電話・メール・
WEBでも受付！

山形大学男女共同参画推進室
TEL 0238-26-3356 FAX 0238-26-3398
Email y-danjoyz@jm.kj.yamagata-u.ac.jp